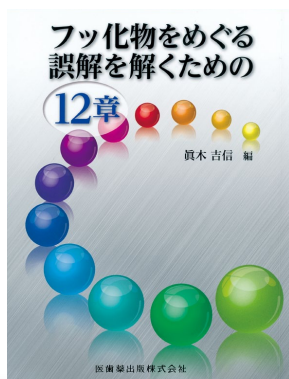


## フッ化物応用の有効性や安全性の根拠がわかる！



### フッ化物をめぐる誤解を解くための12章

眞木吉信 編

A5判/78頁 定価：本体2,400円＋税  
医歯薬出版（2014年1月）

東京医科歯科大学高齢者歯科学分野  
評・薄井由枝（歯科衛生士）



歯科衛生士は口腔疾患の予防の専門家です。私は、2013年8月に南アフリカ共和国で開催された国際歯科衛生士連盟加盟国代表者会議に出席して、あらためて歯科衛生士としての使命を確認しました。

口腔の2大疾患の1つである齲蝕の予防には、フッ化物を利用するのが世界の常識です。北米やスカンジナビアの国々では、3,000ppmF前後の高濃度フッ化物配合歯磨剤が、齲蝕リスクの高い矯正患者や高齢者に対して処方されています。

一方、歯磨きだけでは齲蝕予防ができないという事実を身近なデータから見てとることができます。それは、約95%の国民が1日1回以上歯磨きをしているにもかかわらず、「20歳以降ではおよそ9割以上が齲蝕に罹患しているか、齲蝕経験歯を有している」（厚生労働省

「平成23年歯科疾患実態調査」より）という日本の現実です。もちろん、歯科関係者の努力の成果やフッ化物配合歯磨剤が急速に普及してきていることで、近年子どもたちの齲蝕罹患率は確実に減少してきています。が、残念なことにわが国においては、まだまだフッ化物を過少評価する風潮があり、さらに多くの誤解が存在します。「フッ化物」についてネットで検索すると、上位に現われるのは強烈なネガティブキャンペーンです。本書は、そういった見解に対し健全な判断力を与えてくれる書です。

本書においてはフッ化物応用に関する研究や教育に長年携わられている著者の方々の経験に基づき、これまでに社会的に問題となった実例や想定される質問の具体例をあげ、それについて科学的な根拠となる文献を紹介しながら、わかりやすい言葉を使って解説がなされています。

内容は、有効性や安全性、全身への影響などのフッ化物応用における基本的な疑問に対する解答から、各地域の歯科保健推進条例の制定にみられるフッ化物応用の現状や、フッ化物が引き起こすと憂慮されている環境汚染問題に対する否定的見解などが明確に述べられています。

なかでも、わが国にも齲蝕罹患率が示す健康格差が存在し、それを是正するため、私たち自身が発想の転換、つまり「健康維持はあくまでも自己責任」から「個人の努力を越えた共生へ」と考え方を必要がある、との指摘は“目からうろこ”でした。本書は、いままでのフッ化物応用のガイドブックとはすこし違ふ、もっと大きな広い目で齲蝕予防をとらえることができる本です。

日々の臨床や行政などのコミュニティのなかで、自信をもってフッ化物を推進していくために本書の活用をお勧めします。